



中国地方の「中国」とは、どうしてつけられたの

五畿七道という地方区分があった

昔は、日本全体を、いくつかの地方に分けるときに、「五畿七道」という分け方をしていました。「五畿」とは、「畿内(都を中心とする地方)の5か国」という意味で、山城・大和・河内・和泉・摂津の5か国をさします。「七道」とは、東海道・東山道・北陸道・山陰道・山陽道・南海道・西海道の7地方をさします。

昔は山陽道を「中国」とよんだ

山陽道(播磨・美作・備前・備中・備後・安芸・周防・長門の8か国)は、畿内と西海道(今の九州地方)の中間、または、山陰道(丹波・丹後・但馬・因幡・伯耆・出雲・石見・隠岐の8か国)と南海道(今の四国地方)の中間にあることから、「中国」ともよばれていたようです。今の鳥取・島根・岡山・広島・山口の5県を、「中国地方」とよぶのは、明治時代に入ってから後に、国の役所が決めた分け方によるもので、昔の「中国」とは、範囲がちがっています。

大陸にある「中国」とは

中華人民共和国は、「中国」ともよばれています。これは、中華人民共和国の人口の大部分をしめる漢民族が、古くから、自分たちの土地は世界の中心にあるとして、「中華」とか「中国」とよんだことからきたものです。ですから、この場合の「中国」は、漢民族が住んでいる範囲、または、中華人民共和国の領土をさします。(監修・田代 脩)

